

国際高等専門学校^{（仮称）}の教育

国際高専の教育目標

グローバルイノベーターの育成

3つの方針について

本校は、教育目標を達成するために、次の3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を設定しています。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校は教育目標を「グローバルイノベーターの育成」とし、学生・理事・教職員に対しては学園共同体が共有する価値に基づく信条である「KIT-IDEALS」を常に意識、尊重することを求め、自身及び学園共同体の向上発展を目指している。また、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけるため、第1・2学年は全寮制教育により人間力の陶冶を行い、第3学年には1年間の海外留学を義務づけている。

本校は、上記理念及び教育方法に共感し、次のような特徴を持つ人を求めている。

- ①しっかりとした基礎学力を持ち、科学技術やデザイン（課題の発見・解決）、イノベーション（新しい価値の創造）に興味を持つ人
- ②グローバル社会での活躍に強い関心と探究心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人
- ③主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人

本校では、一般入試・自己推薦入試以外に、多様な学生を募集するためにグローバル入試・帰国生入試を実施する。また、すべての入学試験にて、主体性や協調性、高い向上心を持つ学生を選抜するために面接試験を行う。選考にあたっては、各入試区分で定められた試験及び出願書類により多面的・総合的に評価する。

教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本校は、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけさせるために、下記を特色とする「CDIOイニシアチブ」の理念をカリキュラムに織り込み、学生の主体的な体験を重視するカリキュラムを編成する。また、学修成果の評価については、成果物や試験以外に、活動プロセスや協働状況を評価するためにLMS（学習管理システム）を活用する。

- ①課題発見・解決力を高める。
高専入学時から、Open-ended、即ち決まった答えのない問題について解決策を探るプロジェクトを早い段階でスタートさせる。継続的にデザインシンキングを実践する機会を設けて、課題を発見・定義する経験を繰り返し、幅広い研究成果や調査技術を駆使し、課題の解決へと結びつける力を養っていく。
- ②科学的思考力、コミュニケーション能力を鍛える。
他者と協働しながらアカデミックな探究の精神を養うこと、批判的・分析的思考の技術を磨くこと、ディスカッションやディベートを含む効果的なコミュニケーション能力を育成することに努める。
- ③よりよい社会づくりに積極的に参画する態度を養う。
地域とのふれあいを意識し、地域社会や自然・環境を調査・研究対象としたプロジェクトを行い、地

域貢献を通じて社会の一員としての自覚を醸成する。

④グローバルに活躍できる英語力を培う。

特に数学、科学、工学における教育伝達的手段として第1学年から英語を導入し、徐々に増やしていく。第3学年以降はほとんどの授業を英語で行う。

⑤異なる文化や、多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につける。

文学と芸術に触れる機会や、世界の人々と協働する体験を通じ、創造性と、自身や社会並びに世界に対する深い理解を育む。

卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

本校は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者を養成している。グローバルイノベーターとは、課題を発見する科学的思考力を持ち、最新の工学知識や洞察力を身につけ、創造的な解決策を用いて新しい価値を生み出す人材である。さらに、さまざまな分野の専門家たちと協働し、文化や価値観の多様性を受け入れ、グローバル社会で活躍する力を持ったプロフェSSIONナルでもある。新しい価値の発見者“イノベーター”は、工学原理、工学実践を幅広く理解していなければならない。つまり、工学教育改革を目指す国際的組織「CDIO イニシアチブ」の「Conceive、Design、Implement、Operate」というそれぞれの段階を理解し実践する者である。具体的には、次の能力及び行動規範を身につけることが求められる。

I 社会に貢献するリーダーとしての人間力

①革新への挑戦

信念(高い志・強靱な意志)を持って行動し、失敗に臆することなく粘り強く挑戦し続け、自身やチームを成功へと導くことができる。

②社会的使命感

地域社会や自然環境に関心を持ち、社会的な課題の解決に使命感を持っている。

③リーダーとしての高潔

グローバルな環境でリーダーシップを発揮する一方で、謙虚さや他者への尊敬、思いやりを持ち、信頼される人格を備えている。

II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力

①コラボレーション

チームで目標を達成するために、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献する。

②多様性とアイデンティティ

多様な文化や価値観を持つ人々と協働するための教養を備えつつ、自身の考えを持っている。

③心を動かす力

自身の考えを論理的にまとめたうえで、相手の立場や気持ちを考慮しながら効果的に伝えることができる。

III イノベーターに相応しい卓越した科学技術力

①価値創出

幅広い学問領域の探求とデザイン思考の実践により、これまでにない価値を創出することができる。

②自然・社会・産業と結びつけた科学的思考

科学技術を自然・社会・産業の面から理解・分析し、自分の考えを述べるができる。

③常に学び続ける姿勢

科学・工学の基礎を土台として、常に新しい知識・技術を獲得する姿勢を持っている。

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得することが卒業の要件である。

自己点検・評価の仕組み

本校は、教育の改善を図るために外部機関による評価を受けると共に、本校でも学生と教職員が一体となり、各種の方法で自己点検・評価を実施しています。

学生は、自ら学んだ学習内容（学習の到達度）を各科目の成績や修学状況から確認します（図9参照）。さらに、学生がICT授業アンケートやICT総合アンケートに答えることで、授業への取り組みの積極性や、成果、課外における活動の充実度を自己点検・評価することができます。

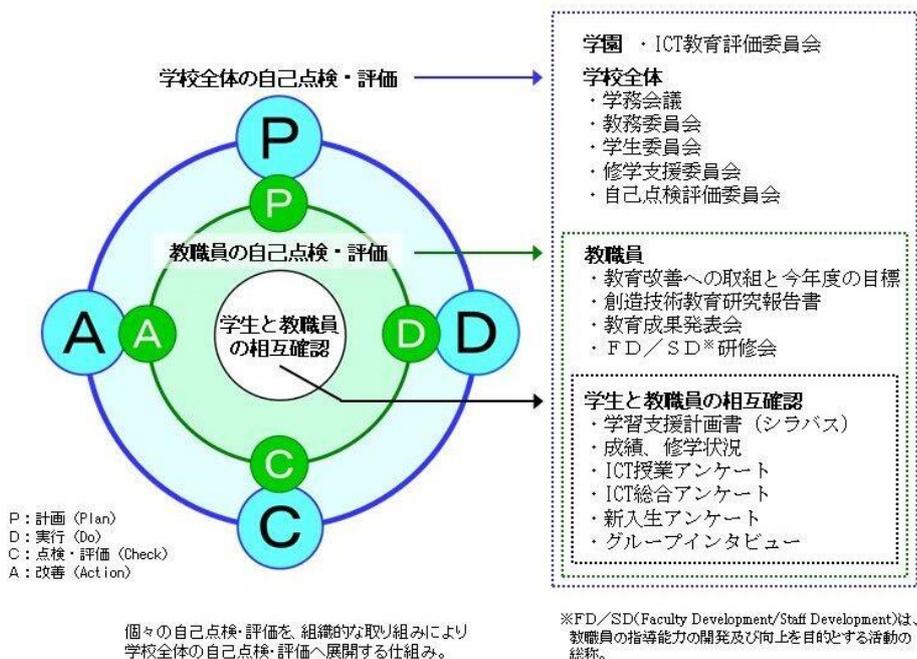


図9. 国際高専における自己点検・評価の概念図

これらの情報は教員にとって、また、本校全体にとって、教育改善のための重要な要素になります。学生と教員が相互確認した内容をベースに、各教員は、年度末に1年間の活動について自己点検・評価し、「今年度の教育改善成果に関する自己点検・評価」を校長に提出します。校長は、それを受けて個別面談を行い、各教員の活動状況全般を確認すると共に、次年度の改善目標について合意形成を図ります。その上で、「教育改善への取組と今年度の目標」を作成し、授業運営の観点から昨年度の実績とその評価および反省の上に立って今年度の授業改善に取り組んでいます。

一方、各教員が授業において実践した活動内容については、教育成果発表会や、創造技術教育研究所でまとめた教育に関する「創造技術教育」（研究報告書）によって全教員に公開され、個々の教員の優れた教育実践例のノウハウが共有されます。また、多年に亘り継続して行われているFD研修会は、授業の創意工夫を図るものとして定着しています。

本校の学事運営を行う組織として学務会議を中心に、教育、修学、進路、教育研究の観点から、「教務委員会」、「学生委員会」、「修学支援委員会」、「デザイン教育研究委員会」などが設置されています。多くの教員が教育活動の点検と学事運営に携わることで、各教員が行った教育実践や学事運営における自己点検の内容が、本校全体の改善活動の中で活かされる仕組みとなっています。さらに、「自己点検評価委員会」を設け本校の教育に関する取り組みを評価改善すると共に、ICT 教育評価委員会を通して学園理事会の諮問機関で第三者評価を行う「十年委員会」へ、教育・研究活動における取り組みの状況や計画などを報告しています。

このように、本校の自己点検のシステムは、個々の自己点検が組織的な取り組みへと展開される仕組みを有しており、校長のリーダーシップのもと、学生、教職員それぞれが学園の理念や本校の教育実践目標を理解し、さらに行動規範 (KIT-IDEALS) に沿って、それぞれが行動することで「工学アカデミア」の実現を目指しています。